【考察】聖書「ヘツロンの系図」を基準にした「モーセ」「ヨシュア」「カレブ」「ラハブ」の関係

▶資料１：聖書に登場するヘツロンの系図と「ヘツロンの子カレブ」

	タイトル(書名)	章:節 聖句 〔検索対象総数：5 / 聖句等の総数 33250 〕 聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K	歴代誌上	2:9 ヘツロンに生まれた子は、エラフメエル、ラム、ケルバイ。
K	歴代誌上	2:10 ラムにはアミナダブが生まれ、アミナダブにはナフションが生まれ、彼はユダ族の首長となった。
K	歴代誌上	別 人 2:11 ナフションにはサルマが生まれ、サルマにはボアズが生まれ、
K	歴代誌上	2:12 ボアズにはオベドが生まれ、オベドにはエッサイが生まれ、
K	歴代誌上	2:18 ヘツロンの子カレブには、妻アズバとエリオトによって子が生まれたが、その子らがイエシェル、ショバブ、アルドンである。 →妻アズバが不妊であったため、エリオトが側女としてヘツロンの子カレブの子を産んだ。

▶資料２（関連聖句）にある聖句から、次のことが分かる。

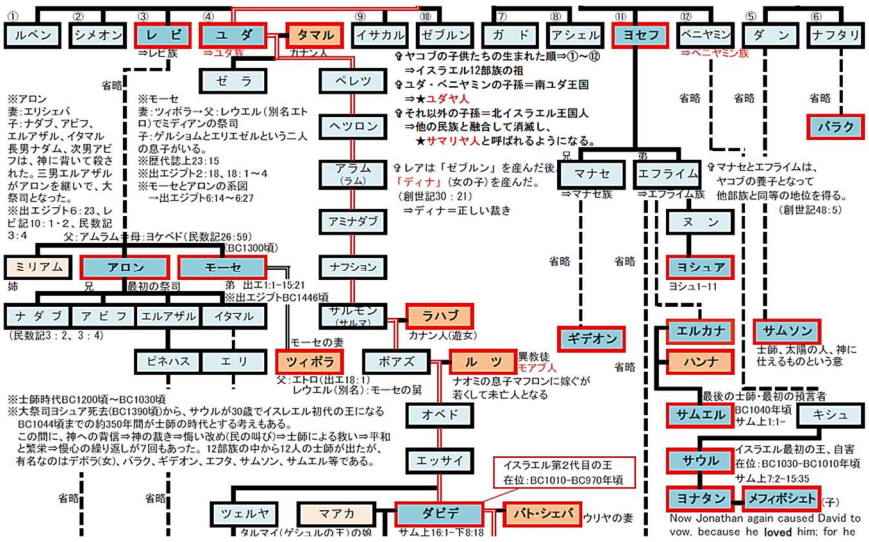
１．モーセ・ヨシュア：同場面で登場する＝同世代
２．モーセ・カレブ：同場面で登場する＝同世代
３．ヨシュア・ラハブ：同場面で登場する＝同世代
４．カレブ・ヨシュア：同場面で登場する＝同世代

モーセ、ヨシュア、カレブ、ラハブ＝同世代

上記１～４より、ラハブは「モーセ」や「カレブ」と同世代であるが、接点はない。

▶資料３（聖書に登場する「カレブ」）及び資料４（エフネの子カレブ）から次のことが分かる。
聖書で「カレブ」を表記するとき、出自＋名前のスタイルで、①「エフネの子カレブ」（資料４、15 か所）、②「ケナズ人エフネの子カレブ」（民数記 32：12、ヨシュア記 14：6、14：14 の 3 か所）と表記している。しかし、歴代誌上 2：18 の聖句だけは、「ヘツロンの子カレブ」（ここだけに登場する人物）と表記しており、①②（同一人物）の「カレブ」とは別人である。

▶以上より、次のことが考察できる（資料５：聖書人物略図）。
モーセ、ヨシュア、カレブ（ヘツロンの子カレブは別人）、ラハブは同世代である。そして、ペレツの子ヘツロンはモーセたちから見て、四世代前（別世代）の人物であり、４人と同世代の人物ではない。



（資料5の一部）

【雑記】平民苗字必称義務令
（へいみんみょうじひっしょうぎむれい、平民苗字必唱義務令）明治 8 年太政官布告第 22 号、1875 年（明治 8 年）2 月 13 日公布。すべての国民に苗字（名字・姓）を名乗ることを義務付けた。

NO COPY H.Taniguchi